

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 11332636 A

(43) Date of publication of application: 07.12.99

(51) Int. Cl

A45D 24/22

A45D 19/00

A45D 19/02

(21) Application number: 10161552

(22) Date of filing: 27.05.98

(71) Applicant: SHISEIDO CO LTD

(72) Inventor: YAMASHITA SHIGEKI
KURAMOTO MASAYUKI
MATSUMOTO RYUZO
SHIMAZAKI KEIICHI

(54) HAIR DYEING COMB

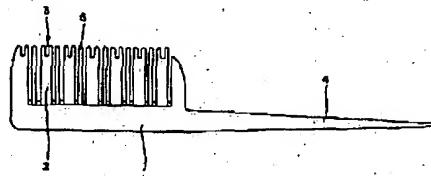
(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To attractively and neatly form stripes by a single combing-up operation by forming a recessed part for combing-up a desired amount of hair at each tip of a wide-width comb teeth lined at regular intervals.

SOLUTION: The many wide-width comb teeth 2 are lined at regular intervals at a comb main body 1 and the recessed part 3 for combing-up a desired amount of hair is formed at each tip of the teeth 2. At the time of combing by fitting the teeth 2 to a desired part, a prescribed amount of hair bunches are combed-up into the recessed parts 3 at the tips of the teeth 2 and hair bunches positioned between respectively adjacent recessed parts 3 enter into gaps between the teeth 2 and are not housed in the parts 3 of the hair dyeing comb, thereby they are not combed-up. Thus, at the time of turning and pulling up the hair dyeing comb in the state of housing the prescribed amount of hair bunches in each recessed part 3, the hair bunches housed in the parts 3 of the many lined teeth 2 are pulled up in the state of stripes at fixed intervals by equalizing the hair amount of all the bunches to be a fixed amount. A stripe pattern is formed by dyeing only the hair bunch parts

pulled up in the state of stripes through the use of hair dye on the market in this state.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-332636

(43)公開日 平成11年(1999)12月7日

(51)Int.Cl.
A 45 D 24/22
19/00
19/02

識別記号

F I
A 45 D 24/22
19/00
19/02

B
B
B

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全5頁)

(21)出願番号 特願平10-161552

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(22)出願日 平成10年(1998)5月27日

(72)発明者 山下 重樹

大阪府大阪市東成区東小橋2丁目11番10号

株式会社資生堂ピューテック内

(72)発明者 倉本 昌幸

大阪府大阪市東成区東小橋2丁目11番10号

株式会社資生堂ピューテック内

(72)発明者 松本 隆三

東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会

社資生堂内

(74)代理人 弁理士 松浦 恵治

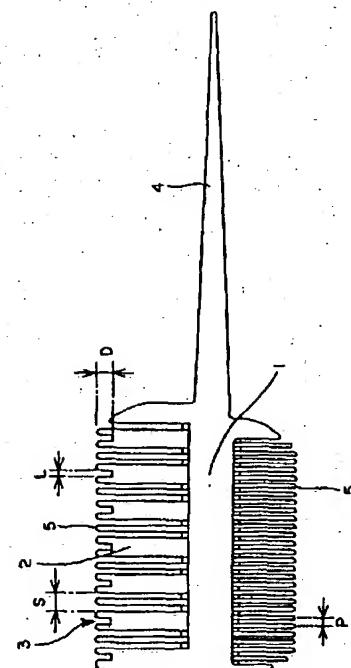
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 染毛用櫛

(57)【要約】

【課題】 本発明は、毛髪に筋模様の着色部を形成するのに便利な染毛用櫛に関する。

【解決手段】 櫛本体に均等間隔で多数の幅広櫛歯を列設し、該幅広櫛歯の各先端には所望量の毛髪をすくい取ることができる凹部を形成したことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 櫛本体に均等間隔で多数の幅広櫛歯を列設し、該幅広櫛歯の各先端には所望量の毛髪をすくい取ることができる凹部を形成したことを特徴とする染毛用櫛。

【請求項2】 櫛本体に均等間隔で多数の幅広櫛歯を列設し、各幅広櫛歯間に通常櫛歯を立設させ、前記各幅広櫛歯の先端には所望量の毛髪をすくい取ることができる凹部を形成したことを特徴とする染毛用櫛。

【請求項3】 櫛本体の片側に幅広櫛歯を列設し、櫛本体の反対側に通常櫛歯を列設してなる、請求項1または請求項2記載の染毛用櫛。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は染毛用櫛に係り、さらに詳しくは、毛髪に筋模様の着色部を形成するのに便利な染毛用櫛に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、毛髪を全体的に染毛するための櫛やブラシは多数知られている。ところが、毛髪に筋模様を付けたり、毛髪の一部にのみ染毛をする場合には、上記従来の櫛やブラシでは使いにくいという問題点があった。

【0003】そこで従来、リングコームと称される櫛の、棒状柄部の先端を利用して、毛髪を薄くスライスし、パネル状になった毛束を縫うようにしてすくい取り、そのすくい取られた毛髪部に対し、染毛剤を塗布することにより毛髪に筋模様の着色部を形成していた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、リングコームによって毛髪をすくい取っていたのでは、リングコームの棒状柄部による毛髪のすくい取り量やすくい取り間隔にムラができてしまい、目的とする筋模様を体裁よく整然と形成することが困難であった。

【0005】この発明は、すくい取ることができる毛髪量やその間隔を均等にでき、染毛を施したい毛髪のみを、一度のすくい取り操作で筋状にすくい取り可能としたもので、この筋模様形成のために使用する染毛用櫛を提供することにより、上述の問題点を解消しようとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】このため本発明の請求項1は、櫛本体に均等間隔で多数の幅広櫛歯を列設し、該幅広櫛歯の各先端には所望量の毛髪をすくい取ることができる凹部を形成したことを特徴とする染毛用櫛である。

【0007】上記の構成にかかる染毛用櫛によれば、通常の櫛により毛髪をとかして櫛目を通して毛束を整えた後、幅広櫛歯を使用して毛束に櫛目を通すと、各幅広櫛歯の先端に設けた凹部内に所定量の毛束が收まり、この

状態で染毛用櫛を回すように引き揚げると、この凹部内に収まつた毛束のみが筋状に上方に引き揚げられる。

【0008】この引き揚げられた毛束部分に、市販の染毛剤を塗布することにより、毛髪の目的部位に筋模様が形成されることになる。

【0009】また本発明の請求項2は、櫛本体に均等間隔で多数の幅広櫛歯を列設し、各幅広櫛歯間に通常櫛歯を立設させ、前記各幅広櫛歯の先端には所望量の毛髪をすくい取ることができる凹部を形成したことを特徴とする染毛用櫛である。

【0010】上記の構成にかかる染毛用櫛によれば、請求項1記載のものと同様に、通常の櫛により毛髪をとかして櫛目を通して毛束を整えた後、幅広櫛歯を使用して毛束に櫛目を通すと、各幅広櫛歯の凹部内に所定量の毛束が收まり、この状態で染毛用櫛を回すように引き揚げると、この凹部内に収まつた毛束のみが筋状に上方に引き揚げられる。このとき、各幅広櫛歯間に通常櫛歯が存在し、この通常櫛歯で毛流れを整えることができ、凹部内に収まる毛束の量をさらに均等にできる効果がある。

【0011】また本発明の請求項3は、櫛本体の片側に幅広櫛歯を列設し、櫛本体の反対側に通常櫛歯を列設してなる、請求項1または請求項2記載の染毛用櫛である。

【0012】このため、請求項3記載の発明では、1本の櫛に幅広櫛歯と通常櫛歯を備えているため、2本の櫛を用意する必要がないので使用性がさらに向上する。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。図1乃至図4は、本発明に係る染毛用櫛の側面図であり、図5は同平面図である。

【0014】櫛本体1は、全体が合成樹脂製又は金属製あるいは木製等の適宜の素材で形成される。特に、成形の容易性や経済性等からは、合成樹脂製が望ましく、耐染毛剤性に問題のないアクリロニトリル・スチレン樹脂(AS)、アクリロニトリル・スチレン・ブタジエン樹脂(ABS)、ポリプロピレン樹脂(PP)、ポリエチレン樹脂(PE)等が好ましい。

【0015】この櫛本体1には、幅広櫛歯2が列設されており、この幅広櫛歯2の各先端には凹部3が形成されている。また櫛本体1の後端には、使用の際握ることとなる柄4が接続されている。

【0016】ここで幅広櫛歯2の先端に形成される凹部3は、所望量の毛髪をすくい取ることが可能となる大きさ及び形状を呈するものであり、U字状、V字状等いかなるものであっても良い。本発明の理解を助けるために、図の実施例の具体的寸法を述べると、通常櫛歯のピッチPと凹部3の幅寸法Lとを同一とし、凹部3の深さ寸法Wは、幅寸法Lの約1.8倍としている。

【0017】ついで前記幅広櫛歯2は、この幅広櫛歯2のみが等間隔で列設される場合(図4参照)と、各幅広櫛歯2間に通常櫛歯5が所定間隔で列設される場合(図1乃至図3参照)とがあり、後者の場合には通常櫛歯5の存在により毛髪の毛流れを整えることができる。

【0018】また本発明の染毛用櫛は、櫛本体1の片側に幅広櫛歯2を列設させたもの(図1参照)であっても良いが、櫛本体1の反対側に通常櫛歯5を列設したもの(図2乃至図4参照)とすることが好ましい。通常櫛歯5と幅広櫛歯2とを一本の櫛本体1に備えるようにすれば、別々の櫛歯を備えた櫛本体1を複数本用意する場合と比較して、使用性が著しく向上する。

【0019】上記の構成にかかる本発明の染毛用櫛を使用する場合を説明すると、まず最初に通常櫛歯5を利用して毛髪全体の毛流れを整え、ついで目的とする部位(例えば、側頭部付近)に幅広櫛歯2を当てて梳くと、幅広櫛歯2の先端の凹部3内に所定量の毛束がすくい取られ、各隣り合う凹部3と凹部3の間に位置する毛束は幅広櫛歯2の隙間Sに入り込むため、染毛用櫛の凹部3には収まらない。のですくい取られることはない。

【0020】このため、各凹部3に所定量の毛束を収めた状態の染毛用櫛を回すようにして引き揚げると、多数並んだ幅広櫛歯2の凹部3に収められた毛束が、いずれも一定量にそろって、一定間隔で筋状に引き揚げされることになる。この状態で、市販の染毛剤を使用して筋状に引き揚げられた毛束だけを染毛すると、毛髪にきれ

いにそろった筋模様を形成することができる。

【0021】

【発明の効果】よって本発明の染毛用櫛を用いれば、幅広櫛歯の先端に形成した凹部を利用することにより、簡単にきれいな筋模様を形成できる優れた効果がある。

【0022】さらには本発明によれば、一本の櫛本体を用意するだけで、事前の髪梳きと、筋状毛束部の梳き操作とを確実に行うことができ、かつ筋状毛束部の梳き操作に際して、毛髪の引っ掛けを少なくする梳き操作が可能となる等の優れた効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る染毛用櫛の側面図である。

【図2】同他の実施例の染毛用櫛の側面図である。

【図3】同他の実施例の染毛用櫛の側面図である。

【図4】同他の実施例の染毛用櫛の側面図である。

【図5】前図の平面図である。

【符号の説明】

1…櫛本体

2…幅広櫛歯

3…凹部

4…柄

5…通常櫛歯

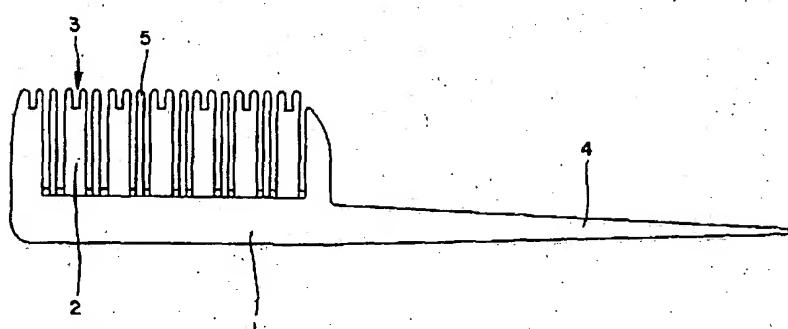
P…通常櫛歯のピッチ

L…凹部の幅寸法

D…凹部の深さ寸法

S…幅広櫛歯間の隙間

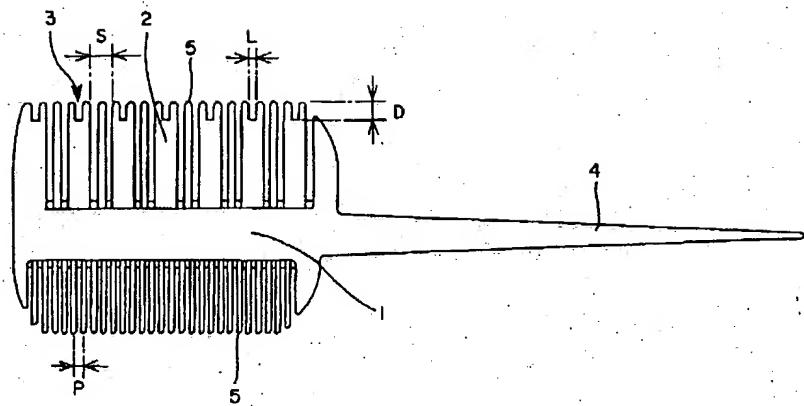
【図1】



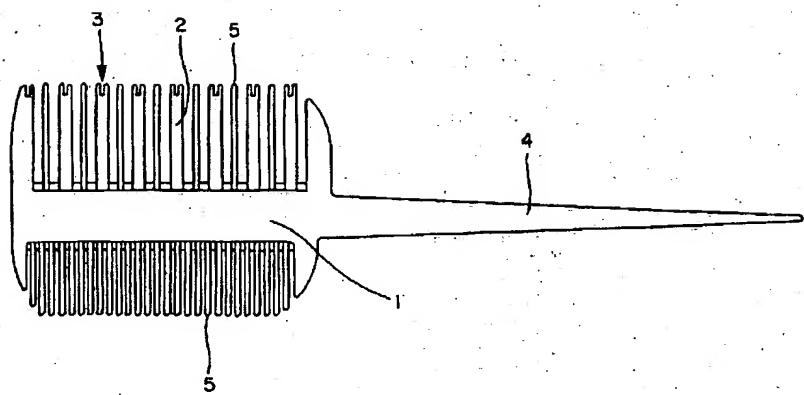
【図5】



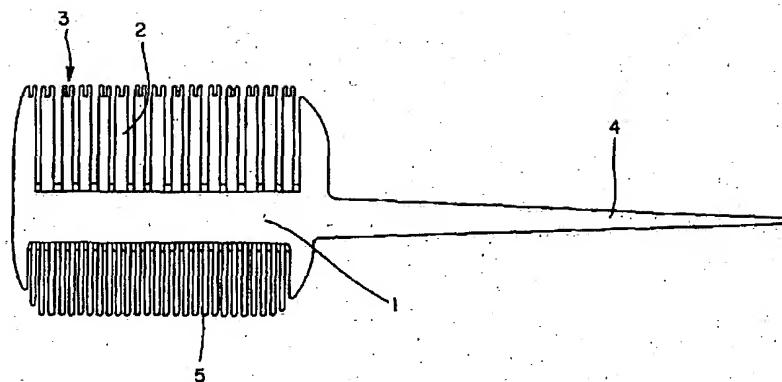
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)発明者 島崎 敬一
東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会
社資生堂内